

筆山

第23号 / 1997・7

土佐中・高同窓会 関東支部会報 編集人/藤宗 俊一(42回)

〒106 東京都港区六本木3-16-12-7F 六本木司法書士合同事務所気付 ☎03-3587-6200/FAX03-3587-6201



同窓会総会に参加して
伊与田 弓子(69回生)

現在就職活動中の私は、こちらで活躍されている先輩方のお話しが伺えるかという期待もあり、同じ69回生の友人と共に勇んで参加しました。

会では、今回講演をして下さった、29回生で現在三菱石油の社長をされている、高倉健に似ていてもダンディな泉谷良彦氏への花束贈呈役を任されるなど、うれしいハプニングもあり、私にとっては忘れられない思い出となりました。

土佐の先輩方にこちらでお会いするのは今回が初めてでしたが、やはり私が一番感じたことは、「皆さん本当にたかましい」ということです。故郷を離れ、全く違った環境の中でも土佐っ子魂を忘れず、それぞれの立場、場所でも強くたくましく生き抜かれている先輩方の姿に、私は本当に感動し、勇気づけられました。私自身は実家に帰る予定ですが、世界中どこにいても「土佐校家族」でいられることは、私の一生の喜びであり、誇りです。

「西村繁男(40回生) 絵本原画展」開催中

平成三年に、木造校舎当時の土佐校の風景を描いた水彩画『向陽曼陀羅』を母校に寄贈したイラストレーターで絵本作家の西村繁男さん(40回生)の絵本原画展が、7月31日までの予定で、千葉県浦安市の浦安市民プラザで開催されています。

西村繁男さんは、「やこうれっしや」「おふろやさん」などの作品で、日常の情景を精密な画風によって、実に細やかに描くことで知られており、「ぼくらの地図旅行」や3500人の人物を描き込んだ大作「絵で見る日本の歴史」で二度にわたり「にっぽん絵本大賞」を受賞している。

本展では、他に「絵で見る広島」の原爆や、「にちよういち」などの作品の原画約130点が展示されている。

なお、会期中の7月27日(日)午後1時から、西村さんの記念講演とサイン会が開催される。この機会に心暖まる西村ワールドと歴史と文化の町浦安を満喫してほしいが。

坂東眞砂子さんが「山姥」で直木賞を受賞したのは今年一月のことでした。坂東さんは佐川町の出身で、土佐高51回生。二年前の支部名簿には職業、フリーライターと載っていました。次からは堂々の「作家」です。今後の活躍が楽しみです。(G)

●お悔やみ申し上げます

林 寛氏(28回) 平成8年7月18日

萩野孝文氏(56回) 平成8年9月24日

野町昭三郎氏(13回) 平成9年1月2日

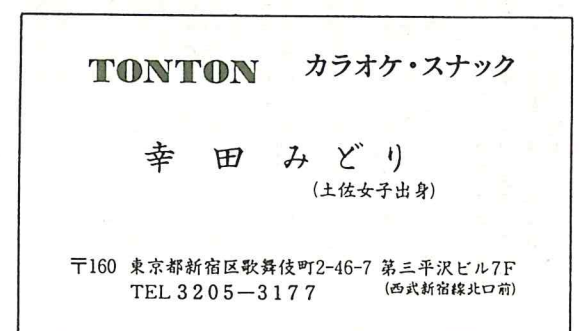
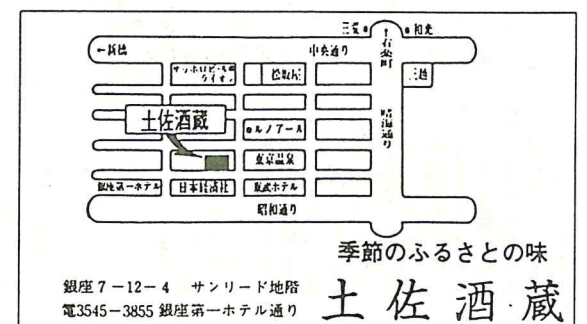
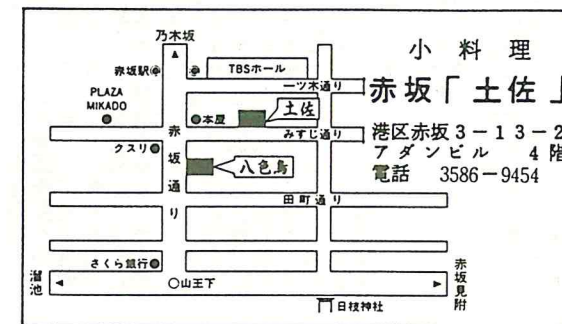
磯久 巖氏(10回) 平成9年1月16日

光森 正氏(20回) 平成9年6月18日

編集後記

30回中城正堯さんの「アジア魔除け曼荼羅」出版記念会が六月三日、品川プリンスホテルでありました。精神科医の斎藤茂太さんら百八十人ほどが出席。わが同窓も多数、いつもとは一寸違う文化的な酒に酔ったことでした。本の内容は9頁の書評をどうぞ。

坂東眞砂子さんが「山姥」で直木賞を受賞したのは今年一月のことでした。坂東さんは佐川町の出身で、土佐高51回生。二年前の支部名簿には職業、フリーライターと載っていました。次からは堂々の「作家」です。今後の活躍が楽しみです。(G)



関東支部活動報告

▽1月18日 広島支部総会に24回学年幹事山中和正氏出席。
▽1月25日 関西支部総会に事務局鶴和出席。
▽5月25日 関東支部総会開催。二五〇名の支部会員、来賓出席。(関連記事5、7頁)

「三根先生追悼誌」の復刻版を発行

母校初代校長三根円次郎先生の遺徳を偲ぶ追悼誌が上梓されたのは昭和十八年。先生の没後八年のことであった。当時の卒業生、在校生による数多くの追悼文集の中には、今も関東支部でお元気に活躍中の北岡龍海氏、近藤久寿治氏、下司順吉氏、谷川寛三氏、曾和純一氏、浜田博之氏等の名前が見える。

その後、先の大戦を含む五十余年の星霜を経る間に、現存を確認できるもの僅か二、三部という状況となった。滋に上記諸先輩や「筆山会」メンバーにより、この復刻保存を求める声が澎湃いとして沸き上がった。

これを受けた宮地貫一関東

支部長、中城正堯くんも出版社長が中心にプロジェクトチームを結成し、試行錯誤を繰り返した後、本年四月その復刻版を世に送り出した。

プロジェクトチームは、この復刻版制作に留らず、追悼誌の中で語られている先生の自学自習を基礎とする個性尊重の教育、生徒の卒業後の人生をも視野に入れた教育者と

母校だより

学校長 森田幸雄
このところ梅雨入り前の穏やかな天候が続いております。関東支部の皆様がたには、ますますご健勝の御事とお喜び申し上げます。

さて爽やかな緊張感に包まれて本年度の入学式、始業式が行われたのがつい先日の様気がしますが、早くも二ヶ月を経過、来週には本年度最初の半期審査に入ります。月の経過の迅速さにただただ驚かされます。

ところで先日は関東支部総会が極めて盛大に開催された由、心からお喜び申し上げます

しての姿勢といった、今日にも通用する、いやむしろ混迷の時代である現代にこそ必要とされる先生の教育理念を、今日の教育界に問うべく、ひいては母校土佐校の更なる飛躍に寄与すべく、新たな文を加えた出版物を発行する計画を進めている。

同チームでは、同窓諸氏の熱筆を歓迎している。

す。私も折角ご招待頂きながら、県下高校体育大会及び中学期クラスマッチと日程重複の為残念ながら欠席させて頂きました。ご了承の程お願いいたします。代理出席の松尾教頭さんから当日の模様を、就中、新入の大学生が多数ご招待に預り感激したことを聞き、先輩各位の暖かいご配慮に對し学校として改めて御礼を申し上げる次第です。

さて本年度の大学入試状況(現役生)について特徴をご報告申し上げます。本年度(九年度)の大学入試は初の新課程入試となりました。本校は新制度に強いという言い伝えがあるようですが、進学

指導部のまとめによると概ね適中したようでした。即ち合格者数(延)三五九名、(昨年二八三名)、合格率(実員)七一・七%(昨年六一・五%)は近年にない大幅な躍進と言えますし、また運動部員の合格率七九・七%も文武両道の校是に叶う成果となりました。ただ浪人諸君についてはあと一踏張りが期待されましたが、ともあれ来年度以降も現役浪人を含めて、更なる向上を果たすべく学校一致態勢で取組んでまいる決意ですので先輩各位のご指導ご激励の程お願い申し上げます。

本部だより

幹事長 岡内紀雄(34回)

去る5月25日の関東支部総会に山崎和孝副会長(26回)と共に出席させていただきました。今年は97年にちなんで7の付く回の方々に次第・進行をお任せしたとのこと、懇親会でも一生懸命に司会を勤められていたのが印象的でした。また、担当された回の方々が誘い合ったことと思いますが、比較的若い世代の同窓の出席が多く見られ、この試みの大きな成果であると感じました。

二、所感その一

関東支部の「筆山」、関西支部の「なんぶう」そして広島支部の「青春」に次いで、この5月に東海支部の会報誌「わかしゃち」が創刊されました。各支部の活動が、いよいよ活発になってまいりまして、大変心強く感じております。

三、平成九年度総会

生とはそういう先生でした。

■永野先生安らかに

5月31日 13:06
土佐高に編入して最初の学年の担任をしていただいたのが永野先生だった。土佐高先輩の従姉妹からタコとかカエルとか先生方のプロフィールを事前に聞いてはいたが、想像していたよりはるかに個性的であり情熱的であり、またカエルに似ていた。大阪から高知県へそれも受験高の土佐高へ進み、学校になじめず少々心配ではあったが、永野先生の存在でたちまち土佐高が気に入った。土佐の授業はいずれも楽しませてもらったが、永野先生の生物は特に然り。41回生の関東の同窓会で、永野先生を囲める日が来ると期待していたが、残念だ。

■お通夜

近藤雅彦
6月1日 7:00
4141の皆さん、何かとご協力いただきまして本当に感謝しております。幹事の大黒君の配慮で、土佐高41回生と書かれた生花が棺の後ろの右つかわにひととき大きく飾られていました。その他にも35回、51回、54回と。弔辞のメールは奥さんに渡し、私もみな名文で、読むほどに泣きました。(来ていた皆で回し読みをしました。)

きつとタベは親子して読んで、涙した事だろうと思います。小生も経験がありますが、もちろん親が死んで悲しいので

土佐高の先生にはそれぞれ、愛称があるが、その中でも最も親しまれて会話の中に登場する愛称の一つであり、愛称大賞というものがあつた。大賞、大賞の有力候補ではないかと思う。カエルにもいろんな種類があるけれど、永野ガエルは何ガエルだったのだろうか。先生は亡くなったが、カエルという愛称とともに、土佐高の廊下を歩く先生の堂々とした白衣姿は、我々の記憶からは永遠に消えない。永野先生！土佐高の中で我々を優しく育てていただき有り難うございました。安らかに、ゆつくりおやすみ下さい。

■永野先生へ

杉本隆男
5月30日 18:00
弔電という改まって書きにくい、永野先生の逝去の報に接してご冥福を祈ると共に、私の気持ちを述べたいと思います。千頭から先生の容態悪化の第一報が入ったのが25日。去年の手結山の30周年の大同窓会から丁度1年後になる。私も中学・高校の6年間で主任になって貰ったことはなかったけれど、あのとき、海辺の果樹園で何故か先生と話をしたいと思つた。「先生、体調はどうですか？」と聞いた。先生は「体を大事にしたいよ。タバコを吸いすぎたらいかんよ。」としきりに言われていた事を思い出す。そして今、35年前に先生の担当実習でカエルの解剖をしたことを思い出す。運動会の際のNホームの櫓は見事なカエルだったじゃないか。

■永野先生

5月30日 19:02
先週の日曜夜に、土佐高41回生のネットワーキング仲間の千頭邦夫君から悲鳴のようなヨロコビが飛び込んできました。それは中学・高校の6年間で永野先生のクラスでお世話になったことはなく、仲間が親しく「カエル」と呼んでいることをうらやましく思いました。

われわれ41回生が高校1年になった昭和38年、それまでの土佐高はTHOKSの5クラスでしたが、THOKSの6クラスになり、初代Nクラス担当に永野先生がなられました。

THOKSは土佐・報恩感謝とクラス名に説明が付いていました。新しいクラスのNには説明がなく、NewのNだと永野先生のNとか生徒の間で話題になりました。34年前のことを思い出しました。先生のご冥福をお祈りいたします。

■甲斐・永野先生

木綿良介
5月30日 19:24
高知在住の41回Nホームの教え子の励ましも、関東在住の41回生の一度は関東同窓会に出て戴きたいとの願も届かず、先生は逝ってしまった。永野先生、どうぞ安らかに休息ください。先生のクラスになったことはありませんが、多感な高校時代「カエル」という渾名の小柄な先生で、自身が生物が好きな先生に生物を習ったことははつきり覚えています。

■永野先生

5月31日 11:45
同窓会や忘年会で永野先生のお顔を拝見できなくなったのは、寂しいかぎりだ。我々の高校時代の先生のイメージ「小柄だが白衣姿で颯爽と歩く姿」をいつまでも残しておこう。永野先生ありがとう。

■カエルへの弔辞

内海 曉
5月31日 12:43
一週間ほど前に永野先生が入院された際に、先生の教え子の電子メールが、ニューヨークに居る私の所まで届きました。それと同時に、同期の山崎郁太郎がインターネットのホームページの上に「カエル」を励ます言葉を載せたという知らせがありました。さつそくコンピュータに向かつてその励ましの言葉を見てみました。そこには50才のおんちゃんがつくったとは思えないような稚拙なカエルの絵と、い「カエル頑張れ！」という声援がありました。永野先

すが、それと別に、人の情に触れて泣かされるのです。あれ、あの人が、又あの人も、と考えると自然に涙が出て止まらないのです。きょうは、先生が御自宅から斎場に移される時の棺を車に乗せる役を41回生が仰せつかりました。皆で担いで斎場へ送ります。6月2日 8:23
昨日の葬儀には、土佐高関係者、四国銀行関係者(ご長男の勤め先)他たくさんの人々に見送られ、永野亮三郎先生は茶毘にふされました。告別式には約200人の人たちが残り、先生をお見送りしました。土佐高関係では松浦前校長、松尾教頭、土居先生、三枝、正木、新階、平岡、等の先生たちが、(他にも居たに違いないが、中に座っていたのでわからない)。

び理事会書記、並びに法人評議員に選任あるいは委嘱いたしました。今後ともよろしく願います。



昭和41年頃の永野先生

“カエル”逝く
生物の永野亮三郎先生が5月29日、心不全のため亡くなられた。66歳だった。

情報刻々 41回ネットより

■カエルが死んでしまふ
千頭邦夫 23・10
5月25日 23・10
実はさつき町田健一（森）から電話がかかって、「カエル（永野亮三郎先生）が危ない」と聞いてびっくりしているところ。実は昨年持病の心臓や肝臓が悪化して市民病院に入院を繰り返して市民。今年のNの恒例のカエル宅で中止していたが、正月に俺や近藤が見舞に行ったときは大丈夫そうと安心して行った。今日緊急で呼ばれて行ったらし、二週間しかもたないと思ふ。二週間というのが町田の意見だ。奥さんが「皆さんに迷惑をかけるのは申し訳ないので大袈裟にはしなくていいけれど、いつもお正月にきて下さっていた皆さんには、逝く前に会わせてやりたい。」と言っている。このことで俺に電話してきた。
Nの諸君はもう4141の皆さん、カエルに何か書いてやってくれば俺が全部プリントアウトして枕元へ持っていくて見れば見せるし見えねば読んで聞かせるから、よろしく。
親より先に恩師が逝ってしまったので、今夜は重たい。千頭です。カエル続報です。

今朝市民病院に行ってきた。501号室です。俺が入って行くときやせえ、鼻にチューブをさした先生が少し手を上げて起き上がるとうするの、あわてて「起きんでいいですよ。」と手を握って止めた。殆ど口もきけないぐらいに衰弱している。奥さんが口に入れるすいかをゆっくりゆっくりかんんでいる。先生に4141ネットをみんなに知らせたことや内海（先生、後免からきよった内海を覚えちゅうろう？）という、ウンウンと声にはならなかったがうなずいていた。N.Yで会ったことなどを話した。
「あらあらお父さんインターネットじゃと、はやから41回生の人らあにみな知られてしまったねえ。どうする？こんな所でグズグズせん」と早うなおつてまた家に来てもらわなやいかんねえ。」と先生の耳元で奥さんが話すと、少し顔が緩んだように見えた。
■カエル頑張り！
多田和弘 18・33
5月26日 18・33
実は高1はNでカエルが担任だった。編入直後の実力テストで360人中300番だった。その時にカエルが編入組の過去の例を示し、励ましてくれた。もし、カエルの励ま

■あの時のカエル、その時のカエル、今のカエル
吉本雅昭 18・16
5月27日 18・16
長崎の吉本です。
カエルはたしか高一の時の主任だったと思う（記憶違いかもしれない）。あの頃、私は、小生でも、僕でもなく、オレだった。カエルはカエルらしい風貌だった。あの時のカエルのよく張ったエラと目を思い出す。
しかし、卒業してから10数年後ある知人の結婚式でカエルと一緒にいた時、挨拶をした。呼吸停止状態にまでいった。カエルは、少しまだいた。そして今、カエルはどんな目をしてるのだろうか。
■永野先生がんばれ
沖田道子 20・35
5月27日 20・35
千頭君のメールを読んで、心配でも、うらやましい。病状が悪化したとき、会いにきて心配する教え子」と「教え子に会わしてやりたい」という奥様」がいて。千頭君達には、そんな30年続いた又いつ

■カエル、東京へ来ないかんぞ！
鶴和千秋 22・01
5月27日 22・01
僕は、理科が全然出来なかった。記憶ではカエルのクラスになったこともない。先生は、あんまりよく覚えちやうらんがやないろうかと思ひますが、僕らあが、土佐高にいたころは、僕とあんまり身長が違わぬのに、背筋を伸ばして、肩をいかにすようにして、廊下を堂々と歩かれようとしたのを覚えておられます。背が低うてもあややつちよつたら、全然貧相に見えん。見習わんとはいかんといつも思ひよった。
僕は、41回生の関東の事務方をやっています。2年に1回、東京で41回の集まりをやつて、このころは、先生に来てもらうようにしています。次はカエルと勝手に決めちよります。準備が出来たら招待状を送ります。早う、それまでに直しちよいてください。
■永野亮三郎先生が29日午後5時30分亡くなられた。
5月30日 5・32
近藤雅彦

■カエル先生みまかる。
西岡恒憲 15・00
5月30日 15・00
平成九年五月二十九日午後五時二十分永野亮三郎先生みまかる。
時に広島、日永の季節にはあれど雲来たりて空漸く暗し。雨もよひなれど驟雨未だ来らず。朝まで同じ。感慨あり。卑生離郷既にして三十有余年。卒業後先生に会いまみえしは一度のみを数ふ。これ卑生の不徳非才のしからしむるところなり。今先生の死に遭遇し新に後悔の念これ生ずるを如何。身の薄情を嘆くのみ。思へば、こそこの春手結山にて先生に会ひし我が薄情を詫言。先生莞爾としてこれを許す。余を遇するに余いたく感動す。
嗚呼先生つひに鬼籍に入る。不肖の弟子その心ざしを責む。せめては先生の魂安らかにを願ひ古人の句に混え拙句を提出しその手向けと為す。合掌
塚も動け わが哭く声は
秋の風 蕉翁
あるだけの 花投げ入れよ
棺の中 漱石
草葉ふる あめ天を見る
かはずかな 恒憲
■永野先生、安らかに！
辻俊行 17・28
5月30日 17・28
何よりも「カエル」という愛称は強烈で、我々同期は勿論、土佐高生の世代を超えた共通語として親しまれている。

今年の総会は、8月2日（土）高知新阪急ホテルにおいて開催いたします。記念講演は24回生で浜松医大名誉教授の大原健士郎さんをお願いいたしました。多数のみなさんのご参加をお待ち申し上げます。

東海支部だより

必殺「編集人」走る

事務局 南穀一（37回生）

念願の支部会報「わかしやち」の発刊にこぎつきました。これ迄、会合のたびに他支部のような、会報を作らんとイカン、という話は出ましたが、「誰かやらんか」となるとシユン太郎。ハイ、それまで。送られてくる他支部の会報を見るたびに指をくわえているだけでした。

しかし、そこは支部長、年の功。鶴の一声、天の声。「本年より支部会費を集めるキニ、支部会報を発刊せよ!!」の号令を發せられた。さあ大変、「おんしゃか、俺か、あんたか、誰ぞネ」の人選が始まった。紆余曲折の結果、一番センスがありそうに見えた35回生内田順子氏を拝み倒して編集人となつていただく

こととなった。第一回編集会議を一月早々、一杯飲みながら敢行した。会報名「わかしやち」はすんなり決まったもののこれから先の難しい話しはダメ、後の内容は編集人に一任。ヨロシクとなった。

それから編集人内田順子氏は走った。支部長の応援を背に受け、事務局を従え、原稿集めから始まった。必殺・シヨルダーバッグは肩に、手にはスーパのビニール袋をふんづかみ、「イザ、出陣」。

初め遅かった分、動き出すと早い。手なれたワープロへの打ち込み、校正、レイアウト、印刷屋との交渉。いやはやまさに「ハハアおそれいりました」であった。

というわけで創刊号は世に出ました。如何だったでしょう。

関西支部だより

事務局 竹原暢子（28回）

早いものであの恐ろしい地震から九二年半が来ようとしています。幹線道路は信じられない程の早さでほぼ復旧しましたし、市民生活も表向きは何事もなかったかの様な所まで戻っては来ましたが、ま

まだまだすべての面で完全復旧とは言えない状態だと思ひます。それではその中で何とか頑張っている支部活動のご報告です。

（1）なんぶう十七号を平成八年十二月三十日発行、会員千四百五十名全員と学校、本部各支部に發送。

（2）平成九年度新年パーティーを一月二十五日（土）にホテル日航大阪にて開催、橋本高知県知事をはじめ来賓の方々を含め総勢百二十名で賑やかに過ごすことが出来ました。今回はじめて県の物産の福引をしました所大変好評でした。

（3）三月永野支部長の提案により関西支部もその組織と気運も充実して来たこともあり、支部の規約を作るべく検討に入る。

（4）五月二十五日関東支部総会に四十一回生佐竹真一出席

（5）五月三十一日東海支部総会に事務局竹原出席

（6）なんぶう十八号候発行の準備中

（7）シニアクラブは月一回の定例囲碁の会を事務局にて開催しています。

広島支部だより

幹事 西岡恒憲（41回生）

もはや桜も散り葉桜の季節になっております。広島は今、あちこちの公園でつつじが満開です。中国山地はなだらかな山々が連なり、ドライブすると灌木林の間に薄紅色の山つつじの群落が見えます。常緑の木々に映えて清楚な感じ。この「筆山」が発行されるのはあじさいの盛りも過ぎている頃でしょうか。

さて、広島支部では1月18日に新年総会・懇親会を行いました。来賓も含めて33名の小所帯です。色々な都合で例年より10名ぐらい少なく、それだけに全員の近況報告ができたとして、家庭的なごやかな雰囲気終始しました。母校からは土居徹先生が出席され母校の近況報告をされました。竹村照雄先輩（20回）もお元気ではある東京からご出席。その他各支部よりのご来賓の方々も旧知の方あり、初めてお会いする方ありで大変楽しい会になりました。

4月下旬に「青春8号」を発行し百五十名の支部会員に

いつまでも心に残るおつき合い

島崎和歌子

ぐんぐんバンク
四国銀行

本店/高知市はりまや町1-1-1 ☎(088)23-2111

営業店舗

- 高知県下.....75店
- 徳島県下.....28店
- 香川県下.....10店
- 愛媛県下.....7店
- 本州地区.....11店

発送しました。相変わらずツコツと手作りにて刊行しております。9月6日に今年の「夏の集い」を行う予定です。沢山の支部会員の参加を期待しています。

昨今はコンピュータ時代で沢山の同窓生が否応なくコンピュータ文化につかっているようです。インターネット上に41回生と57回生のホームページも開設され、世界各国に住む土佐高OBがまるで近所に住んでいるかのように毎日コンピュータ会話を交している。「おんしゃ」「おりゃ」の土佐弁がコンピュータネット上を世界中に飛び交っているのを想像すると愉快ですね。

香川支部だより

支部長 土田哲也(32回)
香川支部は、昨年7月17日に産声を上げました。掲載の機会を頂きましたので、関東支部の皆さんにご挨拶を申し上げます。

当支部は、実は昭和62年2月7日に、現関西支部長の永野元玄氏を中心とした先輩諸氏によって旗揚げをしていました。ところが、人事異動により主要な方々が転出され活

動が中断したままでしたので、改めて再発足することとしました。昨年6月に8名で発起人会を作った準備をすすめ、7月17日高知県に縁のある「土佐っ子」で設立総会を行った次第です。本部の強い御支援と、支部の拠点である四国電力在職者の綿密な準備活動のお陰でスタートできました。当日は33名の香川県在住者が出席したほか、母校から森本堯士教頭、本部から池上武雄副会長、岡内紀雄幹事長、大久保浩二副幹事長、坂本大幹事の各氏が来賓として出席され激励の御挨拶を頂戴しました。会則、役員を決定したのち、懇親会に移り、土佐弁での談笑に湧きながら心地よい夏の夜の一時を過ごしました。

支部役員は、幹事長宮地正隆(36回)、幹事 中澤正良(38回)、熊野貴磨(40回)、山下雅生(50回)、広田昭夫(56回)、会計監査西森三良(48回)です。森本教頭、大久保副幹事長、陰で支えてくれている四国電力の乾正靖取締役と私は、同期で同じSホームでありましたので、私が支部長を仰せつかったもの

と思います。8月3日の本部総会で支部の仲間入りを認めて頂きました。まもなく支部が発足して1周年となりますが、今後御交誼賜りますようお願い申し上げます。
高松市は、高知市と高速道路で2時間、東京と空路で約1時間、JRで5時間強で結ばれており、いずれにも以前とは格段に近くなりました。多くの方が通過された高松駅周辺は、大改造中です。駅舎も一旦取り壊されて建て直されます。官公庁が合同庁舎として近くに集中されるようです。ただ、民間資本の投資計画が低迷していると報じられています。3年程のちに予定通り工事が進めば景観は一新すると思います。道中機会がありましたら、お立ち寄り下さい。

籠尾先生にまた大役

全日本アマチュア野球連盟の組織の中に近々発足する選手強化本部の常任委員に、前母校教頭の籠尾良雄さん(27回生)が選ばれた。
母校野球部監督を勇退された後、高知県小中高野球連絡

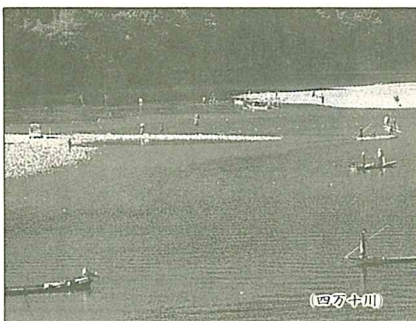
協議会の会長に就任、正しい野球技術の普及と高知県全体の野球振興に尽力されていた籠尾さんは、本年五月には日本高野連の理事に就任したばかり。

同常任委員は、五輪等を視野に入れたナショナルチームの編成や小中高校における野球底辺の拡大と指導を主な任務としており、元五輪監督の山中正竹氏、川島勝司氏、元東海大相模高監督原貢氏等十人にて構成されている。

就任要請を受けた籠尾さんは「過分な大役でびっくりしている。高校野球以外は門外漢なので、しっかりと勉強してお役に立ちたい」と抱負を語っていた。(高知新聞より)

出版リーダー

24回生 大原健士郎 「老いて、わがままに生きる」¥1500 講談社
36回生 大橋 一章 「飛鳥の文明開化」¥1700 吉川弘文館
40回生 堀田 潮 「岸信介(きし)のおすけ」¥1845 講談社
41回生 黒鉄ヒロシ 「新選組」¥1400 PHP出版
51回生 坂東眞砂子 「身辺怪奇」¥1236 朝日新聞社



龍馬も、鯨も待っている
ふるさと高知

暮らしいきいき、ビビッドバンク

高知銀行

東京支店 中央区八重洲2-6-21 (電) 03-3273-3061

書 評

『アジア魔除け
曼荼羅』

30回
中城正堯著
NTT出版 ¥1422

中城正堯先輩は、様々な顔を持つ人である。くもん出版取締役社長、日本旅行作家協会会員、日本民俗学会会員、民俗芸術会会員など、七つくらいの顔をおもちなのはなからうか。その中城さんがアジア各地を旅し、「季刊民俗学」に掲載していた旅の記録が出版された。

住む人や場所が変わっても魔除けや招福除災の願いを神々に託すことは人間共通の心理であるらしい。この神頼み願望は古今東西共通であっても、その形式は、各民族をとりまく自然環境や歴史的背景によって異なる。そのうち、護符の類は、霊媒者による呪術的なものと並んで、世界各地に広がり、さまざまな文化を形づくっている。ここで中城さんは「護符の文化史」を

旅する人であり、旅先では護符の芸術を嘆賞しながら民俗学者になる。

こうしてアジア各地の魔除け文化を探って行くと、例外はあるものの、どうやら日本は、東アジアの魔除け文化、民間信仰の漂着点で、ほとんどあらゆる魔除けが存在するらしい。その招福除災の形を求めて国内、海外を問わず旅をして調査した集大成が、数多くの旅の仲間にも強く勧められて、この(中城さん)にとっては初めての)出版ということになった。豊富な写真とともに第一部では、アジア各地の魔除けを紹介し、第二部では、魔除けのシンボルとしての「眼」、「石」、「画」について蘊蓄をかたむけるという構成になっている。

民族宗教は、しばしば時の政権によって悪用されるけれど、護符は個人の判断でその都度選択活用が可能であり、本人の決断で精神的安らぎと生きる活力を得ることができる自律性の高い信仰、と中城さんは考えていて、そういう眼で見ると、護符はまた新しい姿を見せてくれる。

永森裕子(44回)

た、と云う。

彼と予科以来特に親しかった北川が、娘さんたちを愛しむように見て、父親の少年の頃の思い出を語った。

「あんたらアのお父さんのは、そりゃアハンサムで、それにキレイなボーイソプラノじゃったぜヨ」

そう、磯久には音楽の才もあった。中学の音楽の教師は、そんな磯久に目をかけ、予科の頃から本格的にドイツ語の歌曲など覚えこませたもの

泣き虫
怒り虫

リンデンバウムと呟いた
立仙 浩一
(10回)

だ、と北川は話す。そんなことからふと思いついたものか、北川は再び病室に戻ると、磯久の耳許に口を寄せて囁いた。

「磯久よ、おまん覚えちゅうか、昔チクワ(常盤先生の愛称)によく習うたろうがヨ」

とハミングするようにゆっくりゆっくり歌い出した。すると、何と磯久は今まで

動かさなかった瞳をぐっと見開き、頬にも赤味がさした、ように見えた。そして北川の声を追うようにたどたどしく呟いた。それは、「リンデンバウム」と聴えた。もしかしてシューベルトの「菩提樹」ではなかったか。

「パパ判ったみたい」と娘さんはお互い顔を見合わせてオロオロと声を詰らせた。北川の眼もうるんでいるようだ。つられて私の胸も熱くなった。少年の昔、音楽の時間をともに過ごした旧友の歌声が、途切れかけた彼の記憶の燐を燃え上らせたのである。

またナ、と別れる時の彼の握り直す手にも力づよい感触があった。昔の歌の序でに、私たち仲間のことも思い出してくれたいと見える。

菩提樹の歌を呟いたときの、彼の瞳の中の一瞬の輝きを、私たちを握り返すしつかりした手応えを、私はずっと忘れまい、と思った。

今年の一月十六日、磯久殿は逝った。

提言

「卒業生の英知・若い血を
土佐校の経営に注入しよう」

53 回生 市川直介

校歌を歌う度に、母校への熱い思いがこみ上げる卒業生はたくさんいると思います。私も、いつまでも土佐中・高等学校（以下「土佐校」といいます）は高知県下でナンバー1であって欲しい、絶えずいごっそうの逸材を世に出しつづけて欲しいと切に願う卒業生の一人です。

ところで弁護士になって2年目ぐらいの時、「一人校長」問題を扱いました。ある日突然新任の校長が4人の新任先生とともに、学校にやってきました。手には確かに理事長名で校長に命ずる旨の辞令と現校長を解任する旨の辞令がありました。現校長は信望厚くこの解任は不当だと全教職員が立ち上がりました。すると新任校長は教頭を含む4名の教員幹部に対し、突然懲戒解雇とする理事長名の命令書を手渡ししました。この紛争の根本的な原因は、単に兄妹の間の喧嘩です。理事長解任・

選任の会議を巡って、兄と妹とが「自分が理事長だ」と譲らず、そのとばっちりが教育現場に来たというものでした。この問題を扱った際に、私立学校の経営形態、組織、役員を選任や意思決定過程などについて徹底して調べました。また、その時の教訓として、学校経営の民主化の重要性を認識させられました。

私は、土佐校の経営を今までの経験知識に照らして考えてみました。是非関係者はもちろん卒業生も考えていただきたいと思います。

土佐校の寄付行為によれば、学校の経営者として、理事長・専務理事・理事・監事・評議員が登場します。また、組織としては、理事で構成する理事会、評議員で構成する評議員会があります。

学校法人の業務の決定は、理事会によって行い（寄付行為10条）、理事長が学校法人を代表して一切のことを統括する（寄付行為6条）と規定されています。したがって、理事会の構成及びその選任がどのように行われるかが非常に重要です。

土佐校の寄付行為では役員

の選任・任期に関して次のように規定されています。

第一に、川崎・宇田の相続人は任期の規定もなく必ず理事（以下「相続人理事」といいます）になるとされていること。

第二に、相続人理事の委嘱によりその他理事の多くが選任されること

第三に、第二の結果、理事会の決定及び理事長の業務執行に関し、相続人理事の意思に反することはできないことです。

寄付行為から見ると、相続人理事のウェイトが極めて重い構造となっています。確かに学校法人の設立当時、私財を投じた功績はいつまでも評価されるべきです。しかし、その後多くの土佐校生の浄財ないし私学助成金によって今日の財産的基盤を構築したことをも考えると、そろそろこの寄付行為も見直すべきではないかと思っています。

現在の理事は高知県を代表する企業のトップや学識経験者が就任しています。これまでに、土佐校の発展のために尽くされた功績は敬服いたします。しかし、人数が少ないよ

うに思います。

土佐校の大局的な経営方針を出すには、もっと多くの若い現役有識者の意見を反映できる体制を構築する必要があると思います。現状では対応しきれずに、評議員会も、理事会も形骸化していくのではないかが心配です。

さらに、理事及び評議員の高齢化も心配です。最近、日本国内外を問わず30代40代の若手起業家が活躍しつつあります。アメリカ大統領にしてもイギリス首相にしても40代半ばの者が就任する時代です。

卒業生は、評議員で3名選出されるだけです。土佐校の卒業生数は、約15,000人にのぼり、全国において様々な分野で活躍しています。同窓会では、普段会えない方話せない方と同じ酒を酌み交わし土佐のことを語れます。このようなすばらしい諸先輩の英知を、土佐校の経営にも役立てる手だてを制度として導入する必要があると思っています。

以上のことを考えると、つぎの改革を実現すべく検討していただきたいと思います。

第一に、寄付行為において、相続人理事に関する規定をなくし、卒業生を含む有識者を一定の民主的手続きによって選出する方法に改訂すること

第二に、理事の員数を8名から16名に倍増し、現在の高知県を代表する企業のトップや学識経験者に加えて、卒業生を含む現役有識者を加えること、もちろん若手も視野に入れること

第三に、評議員の員数も17名から32名に倍増し、卒業生を中心に幅広く人材を登用できるようにすること

もちろん組織・制度改革だけでは、人を得ないと成果があがらないとの批判もあると思います。しかし、組織・制度が非民主的で膠着していつかは、自由な議論も若返りも不可能です。

理事会は、専務理事を兼任する校長を介しての教職員の人事権限、教育現場の改革を実現する権限並びに重要な予算承認権があります。土佐校活性化の最終責任は理事・理事会にあると言わざるをえません。

〈総会講演要旨〉
石油と発展する
アジア情勢
泉谷 良彦 (29回)



ただいまご紹介に預かりました29回生の泉谷です。本日の話のタイトルは「石油と発展するアジア情勢」ということですが、実は昨年の夏に高知での同窓会総会でも似たような内容で話をさせていただきました。従いましてその時の話を聞かれた方、あるいは石油事情にお詳しい方などは退屈に思われるかもしれませんので、今のうちに席をはずされて早めにパーティ会場に行かれた方がよろしいかもしれません（笑）。

冗談はさておき、石油の話をする前に知っておいていただきたいのが「バレル」という石油特有の単位です。バレルとはもともと石油を樽に入れて計っていたことに由来するもので、1バレルが約159リットルにあたります。さらに一日あたり何バレルの石油を使用するかとい

う意味で「バレル・パー・デー（B/D）」という単位もあります。因みに現在の日本の石油需要は約6百万B/D、世界全体需要は約6〜7千万B/Dであります。

石油の話で皆さんが最もご関心があるだろうと思われるのは、石油はあとどれくらいあるのかということでありましょう。最新の統計によれば、全世界の原油の確認埋蔵量は1兆バレル強となっており、多い順を国別に並べるとサウジアラビアを筆頭に、イラク、UAEなど中東のOPEC諸国が並びます。しかし今現在原油をどれだけ生産しているかということになりますと、サウジは不動のトップではありますが、続いて旧ソ連やアメリカ、西欧の比率が高くなってまいります。地域別にみると、中東地域は原油の埋蔵最では全世界

の2/3を占めていながら、生産量では1/3を占めるに過ぎないという現状にあるのです。

埋蔵量を単純に生産量で割った数字を「可採年数」といいます。これがいわゆる「石油はあと何年もつ」という言い方をする場合の「何年」にあたり、現在の可採年数は大体44〜45年です。私が会社に入社した年は昭和34年ですが、その頃「石油はあと34〜35年でなくなる」といわれていました。それから40年近くたちますが、石油はなくなるどころか、その可採年数はむしろ増えています。これは技術の進歩によってそれまでは開発出来なかった海底油田の開発が出来るようになったりした結果です。まだ発見されていない油田も多いので、石油の寿命はあと百年近くはあると考えてもいいのではないのでしょうか。

ここで私ども三菱石油が3年前にベトナム沖で掘り当てた油田の話を見せていただきたいと思います。幸い油を掘り当てることが出来ました。それは並大抵のものではありません

ん。油を掘るための設備を備えた特殊な船のことを「リグ」といいますが、このリグのリース料を含め、掘削のための費用が1日当たり10〜15百万円かかります。そのリグで仮に海底4千メートル下まで約百日間、10〜15億円かけて掘り当てた油が出なかつたとする。ただあと3百万バレル掘れば油が出るかもしれない。しかしそのための日数が20日かかるのであれば、また2〜3億円の出費です。それで油を掘り当てられればいいが、出なければ丸損となります。これだけお金をかけても油が出る確率は百本掘って2〜3本。ほとんど博打の世界です。ただこういった努力を払って、日本に石油がもたらされていることを知っていただけたらと思います。

次に石油の需要についてお話しします。ここ十年くらいの間で世界の石油需要は着実に増加していますが、特に増加している地域となるとやはりアジア地域（日本除く）であり、85年から95年にかけてほぼ倍増しています。世界の成長センターといわれるだけあって、この地域の石油需要は

これから21世紀にかけて、さらに拡大してゆくと予想されています。成長著しい中国やアセアン、人口ではいわずれ中国を上回ると思われるインド、伸びは多少鈍るものの韓国や台湾の需要も増加してゆくでしょう。

ここで考えていただきたいのは、アジア地域で増加する石油の需要をどうやって満たすのかということです。これまで産油国だった中国やインドネシアは、今後国内需要が増加していく上に原油の生産量は頭打ちで、原油を輸出するどころか輸入しなければならぬ状況になってきています。ではどうするか。結局石油の需要が拡大してゆくアジア地域は、その供給の大部分を中東地域に依存せざるを得ないということです。現時点で原油の埋蔵量が多い割に生産量がそれほど多くない中東地域は、今後アジア地域に原油を供給出来る余力を持った唯一の地域であり、この2つの地域は石油をめぐる相互依存関係がますます深まってゆくことでしょう。これは本日私が最も強調したかった点であります。

ひるがえって我が国日本の状況はどうでしょうか。現在はもちろん、21世紀になっても石油は我が国にとって最も重要なエネルギーであり続けるのは確実です。しかし日本には石油はありません。ほとんど全量輸入してくるしかないのですが、気になるのは原油輸入全体に占める中東の割合が最近少しずつ上昇しているということです。95年には輸入の約8割が中東の原油でした。近い将来9割を超えることになるでしょう。これはアジア全体が中東に石油の供給の大部分を依存する状況先取りしているものともいえます。

しかしながら現在の我が国と中東諸国との関係が、以前よりも強く深まりつつあるとはとてもいえないのではないのでしょうか。また中東から日本までは大型タンカーで原油を運んでくることはご存知だと思いますが、ペルシャ湾岸の政治情勢は不安定で、途中のマラッカ海峡はタンカーで混みあっている上に海賊が出没するという物騒な所です。こういった湯所で何かことあれば、我が国への原油の

供給がいつストップしてもおかしくはないのです。もちろんかつての石油ショックの時とは違って、現在では石油備蓄制度を始め、安定供給を確保する手段は整っています。が、「油の一滴は血の一滴」という言葉もあるように、皆さんには資源に乏しい我が国の現状を忘れることなく、石油を大切に使うしてほしいと願います。

辛口で説教じみた話になってしまいましたが、最後に私が中東へ出張して印象に残ったことの話をしたいと思います。中東の空港では出入国手続きに何時間も立って待たされます。そしていざ窓口を開けば、誰もが我先にと列を乱して殺到していきます。しかしその中で日本人だけは決して列を乱すことなく、整然と順番を守っていました。私はこういう点が日本人の世界に誇れるいいところだと思っています。今後とも日本のいいところを失わず、それを活かしながら、国際社会の荒波に立ち向かってゆかばきだと私は考えますが、いかがでしょうか。ご静聴ありがとうございます。

裏方さんの記

総会を担当して

一気タイムスリップ

笹岡 眞弓 (47回生)

今年は7の会が幹事ということで役割意識を持って参加しました。だからというわけではありませんが、57回生が中心となって企画した懇親会は、準備に費やした時間に比例した素晴らしいものでした。文武両道を走っている(?!)

今の母校の状況がスクリーンに上映されると、会場には熱い思いがあふれ、一気に皆士佐高生にタイム・スリップしたようでした。

今回、37回、47回、57回、67回生と最大30年の年齢差を超えて集って、改めて感じたことは我が同陽会の人々が、いかに紳士・淑女であるかということでした。大先輩の長老諸兄姉は言うまでもありませんが、今時の若い人も真のボランティアズをもっているのです。この和の中に身を置くと、改めて土佐高の結束の強さに驚き更にそこからパワーを得ることができました。同期会の横のつながりの上に縦糸が重なる、人生の楽しさにより深さと味わいが増す

ようです。宴は終わっても、この思いを大切にしたいと思つた5月25日でした。

これぞ「土佐」

中澤 宏昭 (57回)

プルルルルルッ、プルルルルルッ！

「もしもし、西森です。ごぶさた。元氣？中澤君、今年あんた幹事やってくれん。

私も手伝うき。それに、10年に1回の持ち廻りやし、まあええわろ？川上君もやってくれるし。それでね、何か今までは違う感じの同窓会にしたいき、何か考えてみてや。ほんじゃあ」

ガチャン！ ツーツ、ツーツ、ツーツ。ぐらいの乱暴さで、幸か不幸か、幹事のひとりとして参加することになった。いやーな予感がしていた。気が付くと終電近い時刻になっていた幹事会、数度。この時も、いやーな感じ。

でも、鶴和さんをはじめ、事務局の方々の誠実な姿。先輩幹事の方の親切。幹事みんなのやる気。予想以上の景品の提供。そして何をおいても、出席された方々の楽しそうな会話風景や笑顔。おきまりの

日本航空



東京⇒高知
JAL121便 11:00発⇒12:15着

高知⇒東京
JAL122便 13:00発⇒14:15着

※上記のスケジュールは7/1～8/31までのものです。

JAL国内線のご予約・お問い合わせはお近くの旅行会社または下記までどうぞ。

ニッコー・コクナイ
JALフリーダイヤル ☎ 0120-25-5971
電話番号をよくお確かめのうえ、おかけください。

酔っぱらい。やっぱり土佐ってこれやね。ええ感じ。

素晴らしい出会い

宮崎 晶子 (67回)

入社式を間近に控えた三月の終わり、ほろ酔い気分の私のもとに入った一本の電話。それが全ての始まりでした。パワフルな大先輩の巧みな誘導尋問にまんまとはまった私は、同窓会学年幹事を、あけくの果てには司会者を引き受けてしまはめになってしまったのです。

4月2日、第一回ミーティング。テーブルの上にはお茶とお菓子。皆の愛するお酒は一滴もありません。そんな真面目な打ち合わせを四、五回繰り返して、なんとか当日を迎えることができたのです。

私は今回たまたま司会者という表舞台に立たせて頂きましたが、当日までの約二ヶ月間、数多くのOBの方々の地道な努力がありました。未熟な私を引っ張って下さった先輩方と、口では不平を言いながらも一生懸命やってくれた同期の友人に心から感謝しています。そして何よりも、こんな素晴らしい出会いを得られ

たことが、今では一番貴重な経験だったとうれしく思います。

強い団結力

高平 史郎 (67回生)

最初にこの話が舞い込んできたのは、3月末の一本の電話からでした。座って話を聞いているだけでいいの一言にかつがれて、いつの間にか音楽担当、ゲーム司会担当になつてしまいました。当日、生来小心者の私は、ゲームが近づくとつれ、いてもたってもいられなくなつてしまいました。いよいよ本番、私の緊張もピークに達しました。予想通り、私はうまくしゃべれず、なかなかゲームの意図を伝えられません。その時、他の幹事の方がテーブルをまわつて、説明を補足してくれたのです。このお陰で、私の緊張もほぐれ、無事に終らせることができました。皆様方には感謝の言葉もあります。よく高知の人は閉鎖的だ排他的だと言われますが、私はそうは思いません。皆の団結力が強い証拠だと思います。その典型のような土佐高同窓会に微力ながらも参加できたことは、私の大きな誇りです。

